



「脊髄損傷マニュアル

(リハビリテーション・マネジメント)」

安藤 徳彦 大橋 正洋 石堂 哲郎 木下 博著

脊髄損傷者における理学療法の基本的プログラムは規格化されたものと言えるが、プログラム進行の際、二次的障害・合併症の有無により予後は大きく左右される。このため、リハビリテーション医療に携わる全スタッフは残存能力の最大限の活用に加えて二次的障害・合併症を最小限に留めるよう、実施することが必要である。また、年齢層が若いことから心理・社会・職業・経済的指導も当然必要となってくる。

今回、安藤徳彦・大橋正洋・石堂哲郎・木下博先生により、上述した点を十分に考慮した実践的な技術書が出版された。

本書の内容は、リハビリテーションの流れから6章に分かれており、各論はⅠ．急性期の治療方針、Ⅱ．マネジメント、Ⅲ．動作訓練、Ⅳ．車椅子・装具・自具、Ⅴ．小児の脊髄損傷、Ⅵ．社会資源、によって構成されている。特に第Ⅲ章は、症例・経験の豊富さを感じさせる具体的なものである。その内容は、坐位保持訓練、push up, push up による床上動作訓練、寝返り動作、起き上がり動作訓練、車椅子からベッドへの移動訓

練、車椅子の駆動、歩行、食事と整容と書字などの机上動作、更衣動作訓練、風呂と便所の動作訓練、尿集器の操作、と ADL 全域にわたっている。

序文において安藤先生は『脊髄損傷に対する医学的リハビリテーションをどのように実施すべきか、その技術と方法を問題ごとに整理して、できるだけ具体的に述べることを著者共通の努力目標とした。』と書かれているが、やはり、その内容は全章にわたり実に具体的かつ簡明に記載されている。

医学水準の向上により脊髄損傷者の死亡率低下ならびに損傷レベル高位化が見られる今日、この分野におけるリハビリテーション医療スタッフ間の知識・理解・認識が普及し、臨床面での充実がなされるためには是非とも必要な一冊である。

(A5 頁 222 図 122 写真 96 表 24 4800円

〒 300 医学書院 1984)

(兵庫県リハビリテーションセンター

理学療法士 堅田 裕次)